



芸劇 dance

Von·noズ 演劇の台本を上演するワンダーダンス
原作：安藤 奎『それどころじゃない』

2026. 3.6 (金) —— 8 (日)
東京芸術劇場シアターイースト



それどころじゃない

芸劇 dance

Von·noズ 演劇の台本を上演するワンダーダンス 原作：安藤 奎『それどころじゃない』

振付・脚色・出演：Von·noズ（上村有紀・久保住絵）

ダンスにとって「ドラマ」とは何か

ダンスと演劇の境界を蛇行する Von·noズの新作デュオ作品

ダンスユニット Von·noズが、演劇の上演台本を舞台にのせるプロジェクトの第一弾。踊る、話す、演じる——パフォーマーのアイデンティティそのものが舞台上で交差し、行き違い、ときに置き去りにしながら、作品は少しずつ予想外のかたちへ傾いていく。

これはダンスなのか？演劇なのか？その問い合わせながら、境界を蛇行するワンダーダンス。

2026.3.6(金) —— 3.8(日)

3.6(金) 3.7(土) 3.8(日)

15:00

18:00

19:30

※受付開始：開演の 45 分前 開場：開演の 30 分前



Von·noズ VONNOS

上村有紀と久保住絵によるコンテンポラリーダンスカンパニー。ダンスは動作による芸術であるという考え方のもと、創作活動を行う。抽象化したもの・具体的なものを混在させ、定義を限定しない作品を追求している。国内外で作品の上演を行うほか、近年はコラボレーションも多い。また、世代間交流を目的とした異世代へ向けたダンスワークショップや作品創作を行なながら、ダンスの可能性を探り続けている。

<https://www.vonnos522.com/>

Photo © 齊藤優作

チケット料金 整理番号付き自由席・税込

一般	4,000 円
U-25	3,500 円
高校生以下	1,000 円

※当日券は各料金の 500 円増し

※車椅子でご来場の方は事前にお問い合わせください

※U-25・高校生以下チケットは当日身分証要提示

※未就学児童入場不可

※開演時刻以降は入場いただけない場合があります

『それどころじゃない』

『それどころじゃない』は、今から 5 年前に書いた脚本です。私がこれまでに書いたものの中で、唯一、実体験をもとにしています。ある日、家族でイオンモールに行ったとき、車に残っていた父が、首の長い女の靈に憑りつかれました。その靈は父から離れず、家にまでついてきました。そして、首の長い女は、隣の家の風呂場を覗くようになります。今回、この脚本がダンス作品になるということ楽しみです。どうなるのでしょうか。首を長くして待ちたいと思います。

チケット取り扱い 一般発売 12月 29 日 (月) 10:00

東京芸術劇場ボックスオフィス

電話窓口 0570-010-296 (休館日を除く 10:00~19:00)

<https://www.geigeki.jp/t/>

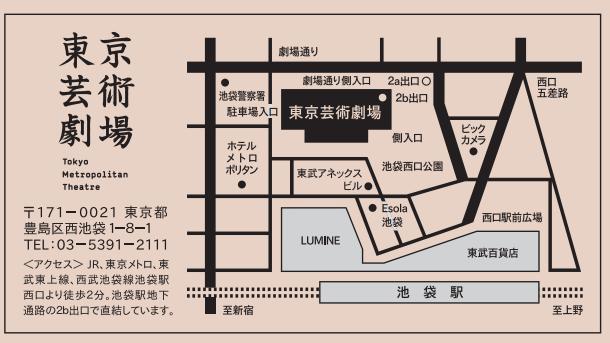


シバイエンジン

<https://shibai-engine.net/prism/webform.php?d=1z537ts7>

安藤 奎 Kei Ando

大分県出身。2016 年、劇団アンバサンドを結成。主宰として作・演出・出演を行う。2024 年「地上の骨」が第 68 回岸田國士戯曲賞最終候補に選出。2025 年「歩かなくても棒に当たる」で第 69 回岸田國士戯曲賞を受賞。また、TBS 火曜ドラマ「じゃあ、あんたが作ってみろよ」の脚本、南海キャンディーズ LIVE 内舞台「人吸い」の作・演出、エッセイ執筆なども手がける。



お問い合わせ：Von·noズ

von.no.zkh@gmail.com

音響：櫻内憧海、江田健太郎 照明：中山奈美 舞台監督：河内 崇

宣伝美術・制作：林 慶一

主催：VONNOS

提携：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

製作協力：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団（彩の国さいたま芸術劇場）

「彩芸プロツサム 2025」